

2 学年だより

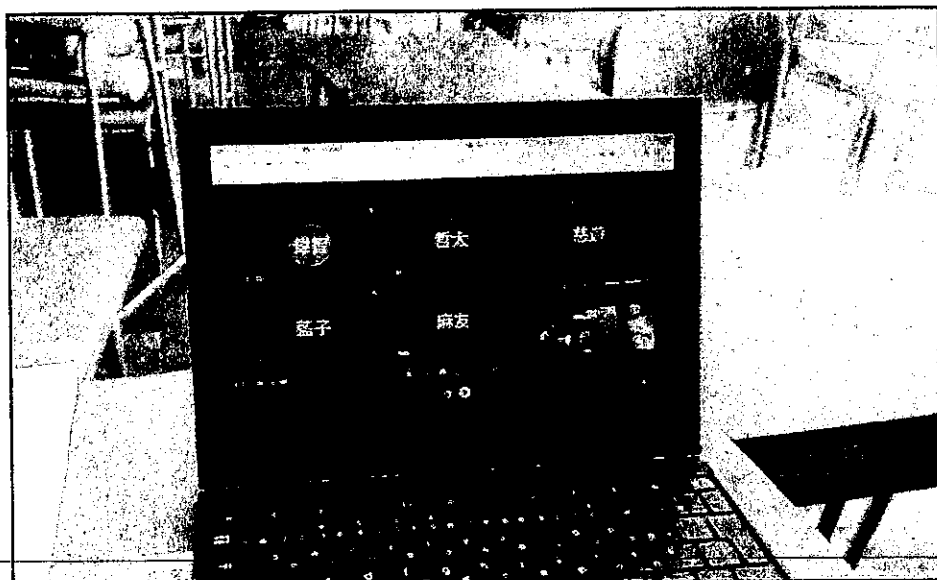
夢の宅配便

2 年学年主任

水野 島代治

1 組が、リモートで班会議を行いました。

4月28日(木)に遠足の班会議を行いました。学級閉鎖になっていた1組も、各班ごとにクロームブックを使って、リモートで班会議をしました。プライバシーに配慮して、顔は映さずに会議をスムーズに行っていました。班会議の最中に質問がある班は、マイクで先生を呼んで班会議を進めていました。



新型コロナウイルスの影響でICT教育が急速に学校現場に導入されています。リモートでの班会議を行っている様子をタブレット越しに見ていると、これが将来の職場の日常的な光景なのだろうなと思いました。新型コロナウイルスの前までは、遠足の調べ学習は、時刻表や地図帳、旅行雑誌などを利用して見学史跡やご飯を食べるお店などを何時間もかけて決めていました。しかし、今はクロームブックのネットを利用してあっという間に調べていきます。生徒たちの検索のスピードがとても早いので驚かされます。調べ学習以外の普段の授業でもタブレットをノート代わりにしている生徒も出てきました。

私が小学校の高学年のときに電話が普及して、生徒が長電話をするとか、親のわからないところで子供同士が夜中に電話で話をするとか、電話の普及で子どもの姿が見えなくなるなどと問題になりました。学校は、全校集会で、電電公社(今のNTTの前身)の人を招いて、正しい電話の使い方などを指導しました。内容は、電話のかけ方、①必ず自分の名前を名乗ること、②電話は用件だけを伝えるもので話は短めにすることと用のない話はしない。③夜は8時以降は電話をしてはならない。など教えられました。それでも、夜8時以降に電話で話す生徒がいたので、学校で「夜の電話は禁止」など注意されました。今では、あたり前の情報伝達の道具である電話が社会に溶け込むまでは大変だったわけです。

ICTの端末機であるクロームブック、スマホなども使い方を間違えるとトラブルになったり大きな問題に発展したりもします。スマホが最初に出たときに、いたずらの写真をネットに載せて、社会問題になりましたが、今はそのような話題は出なくなりました。電話も普及してからは、いたずら電話などの問題が起きました。しかし、今、ワン切りなどのイタ電をする人はほとんどいなくなりました。ICT教育は、将来、必要な教育だと思います。学校は、クロームブックの正しい使い方を生徒に考えさせながら、学校のあらゆる場面で情報教育を積極的に進めていくことが何よりも大切だとクロームブックを使いこなす生徒を見て痛感しました。